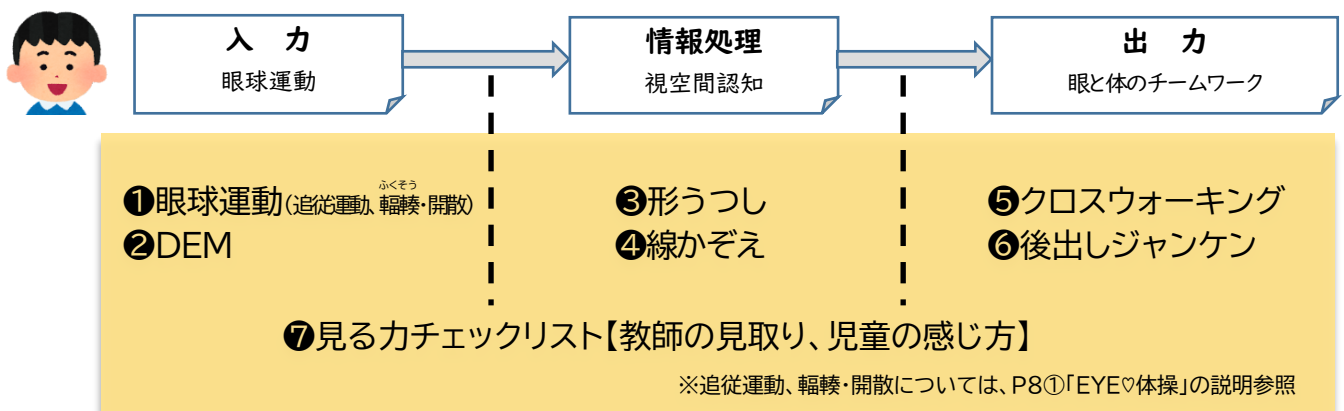


# 1 子どもの実態を把握する

## ■ 全校児童を対象にしたアセスメント

### アセスメントマニュアルの作成

ビジョンの各段階（入力・情報処理・出力）をバランスよく測れるような内容を考え、町二小独自のマニュアルを作成しました。教師によるチェック項目（①～⑥）と、3年生以上には、「⑦見る力チェックリスト」を実施しました。（資料「アセスメントマニュアル[町二小版]参照」）



### 実施について

研究1年目の11月に、全種類のアセスメントを全児童対象に実施しました。また、①眼球運動については、専門性があるビジョントレーナーの方々に協力を依頼し、全児童を対象に実施しました。研究2年目は、主に②～⑤の項目を実施しました。アセスメントの結果は「眼の使い方チェックシート」（P7下）に入力し、個人シートを作成しました。

	6月	10月・11月	3月
研究1年目		①～⑦【全児童】	①～⑦【観察対象児】
研究2年目	③【1年全児童】 ②③④⑦【観察対象児】	②～⑤【全児童】 【全児童】	

⑦「見る力チェックリスト」で、児童の状態を確認するとともに、学習面で特につまずいていることが分かるノートや課題の記録を残し、トレーニングの結果がどのように伸びたかを比較しました。

#### <観察対象児について>

各学級から、ビジョンの課題が多い児童2名、ほとんどない児童1名、中位の児童1名、計4名を観察対象児としました。

⑦「見る力チェックリスト(3年以上)」や「眼の使い方チェックシート」を基に、児童のビジョンに関する実態を把握し、決定しました。

## 入力 眼球運動

### ①眼球運動(追従運動・輻輳・開散)

対象物を眼で追う際の眼球の動きを観察します。途中で視線がそれたり、眼球が揺れたりしていないかを確認します。眼球運動の特に追従(横、縦、斜め)と、輻輳・開散について見取ります。

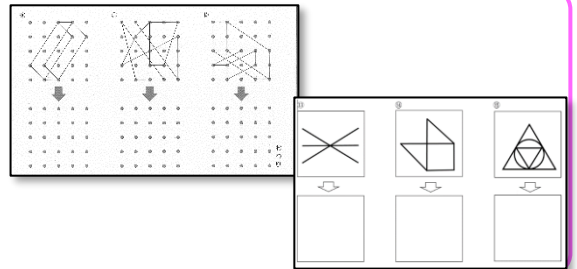
### ②DEM(読書時の跳躍性眼球運動を測定するテスト)

ランダムに並んだ数字を素早く正確に読み、その時間や読み間違いを記録します。このアセスメントでは、眼球運動の特に跳躍性について見取ります。

## 情報処理 視空間認知

### ③形うつし

2種類のシートに取り組みます。左のシートは、見本と同じように点と点をつないで、形を作ります。正しい点を通っていれば丸です。右のシートは、見本と同じように、大きさも同じものを下の欄に描き写します。このアセスメントでは、視空間認知の力を見取ります。



### ④線かぞえ

縦、横、斜めに並んでいる線の本数を、指や鉛筆等を使わずに眼だけを使って数えます。眼の焦点合わせを上手に行うことができるかが分かります。



## 出力 眼と体のチームワーク

### ⑤クロスウォーキング

一本の線を越すように、足をクロス(交差)させながら歩きます。前進と後進を行いました。



### ⑥後出しジャンケン

出されたじゃんけんに対して、後出しでじゃんけんをします。後から出す者が、勝つように出させたり、負けるようにあるいはあいこで出させたり、リーダーの指示で実施します。



## <眼の使い方チェックシート>

「③形うつし」と「④線かぞえ」はプリントを配布し、全員一斉に行いました。それ以外は個別に実施しました。その中でも眼球運動については、見取りに専門性が求められるため、年間講師の紹介でビジョントレーナーの方々に協力を依頼しました。チェックの結果は、個別シートに入力しました。

3年生以上の児童には、「⑦見る力チェックリスト」を記入してもらいました。本人が「見る」ことについてどのように感じているかを問うことで、教師が気付かなかった「困り感」を明らかにすることができました。

